

# 「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年1月13日(金) NO24 文責 <sup>きした</sup>木下 <sup>ふみあき</sup>文秋

## 以心伝信～心をもって伝えれば、必ず伝わると信じて

「以心伝心」とは、文字や言葉を使わなくても、お互いの心と心で通じ合うことを意味します。もとは禅宗の語で、師匠が弟子に言葉や文字で表されないことを、言葉ではなく心で伝えたと言われます。要するに相手が伝えたいことを聞き手が理解してくれることを指します。例えば、話し手の表情をみて、その思いの丈や重さを感じ取って行動に移すことです。正しくは「以心伝心」と書きますがタイトルには「以心伝信」と造語が書かれています。この造語は、私が20年ほど前に三股中に勤務していた時のある学年の学年便りのタイトルです。「心をもって伝えれば必ず伝わると信じて」の意味から「心」が「信」に変わっています。当時の三股中は全校生徒1000名を超えていて、外部とのトラブル等もあり職員も結構疲弊していて、その時の学年主任が「私たちの思いは必ず伝わると信じて根気強くやりましょう！」と投げかけてその言葉がそのままタイトルとなったものです。さて、現在三股中の生徒数は871名ですが、来年度は943名を予定しているそうです。生徒数は今後も数年増え続ける見込みで、学校の規模が大きくなれば行事も勢いが出るし、それなりのプラス作用もあります。しかし、大きい学校になればそれなりのリスクも付きまといます。当時から三股中には、職員が熱い思いで生徒を指導する風潮がありました。その象徴としてよく「三股魂」という言葉を耳にします。1000名に迫る規模の学校だと、我々教職員の力だけでは及ばずのこともあります。そんな時、生徒の皆さんの思いがとても大事になります。北九州の成人式で、振袖に墨汁がまかれるという呆れたニュースがありました。私は三股町のはたちの集いに1月5日に参加しましたが、それは素晴らしい式でした。「静かにしてください」というアナウンスは一度もありませんでした。皆さんの先輩は素晴らしいはたちを迎えていました。これも集いに招待された当時の担任の先生や、ロビーでモニター越しに式に参加していた保護者の思いをはたちの彼らが汲んでいたのだと思います。コロナ禍の生活が3年を超えました。マスク越しの表情には本当の喜怒哀楽も見えないことがあります。皆さんの学級の中に、泣いたりふさぎ込んだりしている人がいたら手を差し伸べてあげてください。造語『以心伝信』～心をもって伝えれば、必ず伝わると信じて～は脈々と受け継がれているのだと思います。